



## Motor Expoにみる急速な中国メーカーの台頭

北陸銀行 国際部  
バンコク駐在員事務所  
所長 湧川 裕明

## 1. はじめに

2023年11月29日から12月11日の期間、第40回 Motor Expo（モーターエキスポ）がバンコク郊外のイベント会場「インパクトチャレンジャー」にて開催されました。

本イベントは、自動車・バイクの展示販売会で、自動車33ブランド、バイク22ブランドなどが出展しました。筆者も昨年に続き会場に足を運びましたが、EVを中心に中国系メーカーのプレゼンスが昨年よりも一段と大きく感じました。一端をご紹介します。

## 2. 急速な中国EVメーカーの台頭

表1の通り、去年のメーカー別販売台数上位には中国系メーカーがMGの1社のみだったのに対し、今年はBYD他3社が上位に名を連ねています。この1年でいかに中国勢が販売シェアを伸ばしてきたか（言い換えれば、日系メーカーのシェアが食われたか）が分かります。

表1. 主要メーカー別小売販売台数(1~11月累計)

《2022年》 (単位:台)

1	Toyota	258,612	33.7%
2	Isuzu	194,275	25.3%
3	Honda	74,518	9.7%
4	Mitsubishi	46,181	6.0%
5	Ford	38,079	5.0%
6	Mazda	30,059	3.9%
7	MG	24,536	3.2%
8	Nissan	20,357	2.7%
9	Suzuki	18,411	2.4%
10	Hino	12,703	1.7%
	その他	48,858	6.4%
	合計	766,589	100.0%

《2023年》 (単位:台)

1	Toyota	241,844	34.2%
2	Isuzu	141,671	20.0%
3	Honda	84,516	11.9%
4	Ford	33,655	4.8%
5	Mitsubishi	30,466	4.3%
6	BYD	26,377	3.7%
7	MG	24,793	3.5%
8	Nissan	15,036	2.1%
9	NETA	12,057	1.7%
10	GWM	11,789	1.7%
	その他	85,250	12.1%
	合計	707,454	100.0%

日系メーカー  
中国系メーカー

出所:タイ工業連盟

一方、表2はモーターエキスポ開催中の予約販売台数で、足元の趨勢を表していると言えます。合計予約販売台数の増加も注目すべきですが、ここでも中国勢の躍進が目立つ結果となっています。今年の会場のレイアウト図（右写真）を見ても、上段左側の中国メーカー（GWM、BYD、MG）のブースの規模が日本勢（トヨタ、ホンダ）に引けを取らないものだということが分かります。

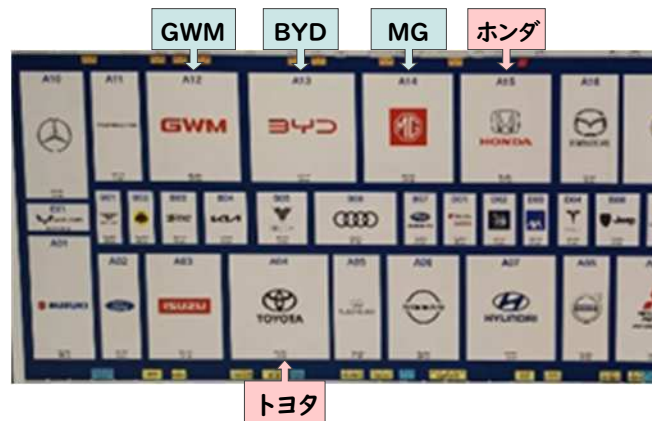


表2. モーターエキスポ 開催期間中の予約販売台数

《2022年》		(単位:台)	
1	Toyota	5,084	17.4%
2	Honda	2,795	9.5%
3	Isuzu	2,383	8.1%
4	Suzuki	2,028	6.9%
5	MG	1,965	6.7%
6	Nissan	1,908	6.5%
7	Mazda	1,760	6.0%
8	BYD	1,701	5.8%
9	GWM	1,439	4.9%
10	Ford	1,409	4.8%
	その他	6,802	23.2%
	合計	29,274	100.0%

《2023年》		(単位:台)	
1	Toyota	7,245	13.6%
2	Honda	6,149	11.5%
3	BYD	5,455	10.2%
4	AION	4,568	8.6%
5	MG	3,568	6.7%
6	長安汽車	3,549	6.7%
7	GWM	3,524	6.6%
8	Isuzu	2,460	4.6%
9	Nissan	2,459	4.6%
10	Mazda	1,961	3.7%
	その他	12,310	23.1%
	合計	53,248	100.0%

日系メーカー  
 中国系メーカー

出所:MOTOR EXPO HP

### 3. 中国系メーカーはタイ政府のEV推進策をうまく活用している

タイの新経済モデル「Thailand4.0」において、次世代自動車を重点産業の一つとして位置付け、BOI（タイ投資委員会）の投資恩典でEVに関連した生産能力の拡大を後押ししています。この動きに中国系メーカーが素早く反応し、タイをEV生産拠点とするべく投資を増やしています。

2022年9月に初の海外工場をタイに設立することを発表したBYDに続き、広州汽車(AION)、長安汽車も工場建設を表明しています。一方、日本勢は12月にEV生産を始めたホンダ1社にとどまっています。

タイ政府はタイでEV生産を行おうとするメーカーのEVに税金の優遇措置を与えており、モーターエキスポで確認できたのは、トヨタのガソリン車の自動車税率が20%であるのに対し、BYDのEVは2%と販売価格に大きな影響を与えています。



モーターエキスポ会場入口のディスプレイ(事務所撮影)

## 4. おわりに

タイのEV比率は足元で13%と、この1年で大きく増加しました。そのほとんどを中国勢が占めている状況です。タイの工業団地でも中国系のサプライヤー企業の工場用地取得の動きが活発です。日本勢が長年タイで築き上げてきたサプライチェーンは強固なものがありますが、今後どのような動きが出てくるか、引き続き注目していきたいと思えます。

### <ご注意>

文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**海外ビジネス情報**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp